

『和歌山市埋蔵文化財発掘情報 和歌山城西の丸～西側石垣と能舞台の発掘調査～ 』

展示期間 令和元年5月9日（木）から5月17日（金）まで

場 所 和歌山市役所1階 市民ギャラリー

時 間 平日（月～金） 8時30分～17時15分 〈ただし、木曜日は19時まで〉

展示内容

おじょうないそうおんえず

和歌山城西の丸は、江戸時代後期の「和歌山御城内惣御絵図」をみると、西側は石垣で区画されており、敷地の北側に2箇所（表御門・裏御門）の入口があります。表御門の南側には能舞台をはじめとする能楽の施設があり、それと対面する形で書院が配置されています。さらに、能舞台の周囲には「御見物所」、「女中見物所」などもあり、観能できるようになっています。また、西の丸の南西部には御殿の奥に藩主が座る「御座之間」、その横に「御数奇屋」（茶室）があり、南側には西之丸庭園が広がっています。庭園西側の高台には離れ座敷「聴松閣」があり、階段廊下で「御座之間」とつながっています。「御膳所」、「御納戸」などもあることから、藩主の日常生活や簡単な政務もおこなえるようになっていますが、能楽と茶の湯の施設に大きな比重を占められていたことがわかります。そのため西の丸は、茶の湯、能楽などを楽しむための空間であったと考えられます。

今回は、絵図にある「御勘定御門角御櫓」の東隣に位置する櫓台の調査と「能舞台」の存在の有無を確認するための発掘調査を実施しました（40次調査）。櫓台の調査では櫓台の規模や南側に雁木（階段）が取り付いており、雁木は櫓台の築造当初から存在していた可能性も想定されます。能舞台の確認調査では、絵図に描かれた階段などは残っていませんでしたが、建物の4隅のうち3箇所（柱）の痕跡を確認しました。また、能舞台の前面には玉石が敷かれていたことも明らかになりました。

これらの発掘調査成果のうち、主な遺構についての紹介をします。



西側石垣近景（史跡和歌山城第40次調査）



調査作業風景（史跡和歌山城第40次調査）